



モラレス レニーさん (36歳)・佳苗さん (32歳)
和みちゃん (7歳)・平らちゃん (5歳)

カリブ海から須崎の海へ。

須崎地区へ移住

レニーさんと佳苗さんは、レニーさんの母国ホンジュラスで知り合い結婚、その後、佳苗さんの学業のこともあって日本で生活することになり、須崎に来る前は家族で南国市に住んでいました。日本での生活で、レニーさんは高知の環境や、熱さを持つ高知の人を気に入ったそうです。そして、須崎で定置網漁の仕事に就くことが決まり、この4月から家族で須崎に住むことになりました。「移住して間もないですが、すでに子どもはすっかり須崎に馴染み、友だちと外で走り回り、地域で見守られながら伸び伸びと育っていると感じます。とても子育てしやすい環境で安心して気に入っています」と、佳苗さん。佳苗さんも、すでに須崎に多様な知人ができたということでした。

須崎に住んで、レニーさんは仕事に励まれています。また、佳苗さんは、子どもと一緒によさこいなどのイベントへの参加や、自然を楽しむことのできるシーカヤックなどの体験をしてみたいと教えてくれました。



佐々木弘之さん (71歳)

須崎には使われていない
資源が豊富。
もったいない！

新莊地区へ移住

大阪生まれ・京都市育ちの佐々木さんは、もともと田舎が好きで滋賀県に移住し生活をしていたのですが、その場所も都会化してきたことから再移住を決意。大阪で行われた高知県移住セミナーに参加し、暮らすさきのパンフレットを見て須崎に興味を持ったそうです。いずれは漬物工房を開きたいと考えていた佐々木さんにとって、ミョウガの値段が安いことや、資源の豊富なが決め手となり、昨年4月から須崎市に移住されています。

佐々木さんは、漬物づくり以外にも、スポーツ整体、カラオケ教室、お笑いライブなどにも積極的に取り組んでいます。「須崎は資源があるのに使われておらず、もったいないと思うことが多くあるので、それらを有効活用できるようなことにも挑戦し、“死ぬまでチャレンジャー”でいたいと思います」と熱く語っていただきました。



移住定住支援センター 暮らすさきとは

暮らすさきは平成23年4月13日より、移住定住支援事業を主な事業とし発足しました。事業を通して、人口減少に歯止めをかけ地域活性化を目指しています。3人の女性スタッフで移住希望者の相談対応をしたり、空き家の調査を行なっています。

桐間南1番地 SAT 情報館
TEL/FAX 050-8808-6388
E-mail info@kurasusaki.com

kurasusaki |

検索

移住定住支援センター暮らすさき【事業の概要】

